

## 第64期（平成25年度）事業の概況

### 1. 会 員

会員数は、平成25年12月31日現在、名誉会員7、個人正会員1,861、団体正会員386（433口）、学生会員243の計2,497であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員129、団体正会員21（24口）、学生会員121の新入会を得たものの、個人正会員192、団体正会員19（20口）、学生会員154の退会があり、前年同期に比べ計83が減少した。

### 2. 会 計

一般事業の当初予算は、平成25年度初頭の会員数と景気の動向などを考慮し、かつ、会員数3%増の会員増強を推し進める方針に従い、前年並みとした。赤字決算が予想されたため、将来計画事業積立資産の残額4,100,000円の取り崩しを予定した。

これに対して、景気の回復は遅く、会員増強よりも会員減少が予想以上に大きかったため、会費収入では、学生会員会費は予算に達したが、団体正会員会費と個人正会員会費は予算額に達せず、会費収入合計は予算額の98.9%であった。一方、一般事業の講演大会収入、学術討論会収入は、引き続き景気の低迷の影響を受けつつも参加者増により予算額を上回ったが、セミナー収入、会誌収入は予算額に達しなかった。一般事業活動収入は全体として予算に対して98.3%となった。

このような状況の下で、一般事業の支出では、会誌印刷費の削減を始めとして、事業費、事務費とも思い及ぶ限りの徹底した節約に努めた。特に、講演大会支出では、大会開催大学による多大なご協力などにより、会場費などを大幅に削減することが可能となった。一般事業活動支出は全体として予算に対して92.9%となった。

以上より、一般事業の当期収支差額は、将来計画事業積立資産の取り崩しを行わなくとも、2,485,829円となった。前期繰越収支差額マイナス2,831,186円とあわせて、次期繰越収支差額はマイナス345,357円となった。

展示会会計では、前年と同様に同じ企業とリスクを避けた契約を結んだことにより、予算通りの結果となった。

一般事業会計、部会会計、支部会計、展示会会計を連結した結果、協会全体の基本財産を除いた正味財産は9,328,823円となり、前期より4,245,436円の回復となった。

### 3. 講演大会等

講演大会は、春季（第127回：日本工業大学、3月18～19日）および秋季（第128回：福岡工業大学、9月24～25日）の2回開催され、両大会の合計発表件数 366件、参加登録者 1,009名で昨年度より大幅に上回った。ポスターセッションおよび話題テーマによるシンポジウムは聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。また、春季大会において「第19回学術奨励講演賞」を8名に授与した。秋季大会においては、「第15回優秀講演賞」受賞者3名を、「第2回学生優秀講演賞」受賞者5名を選考し、第129回講演大会において授与する予定である。なお、講演大会に合わせて武井記念講演会を2回開催し、多数

の参加者があった。

また、第70回表面技術アカデミック研究会討論会「“めっきのしくみ”を考える」（東京理科大学森戸記念館、12月10日）を開催し、81名の多くの参加者を集めた。

#### 4. 会誌

12テーマの小特集および特集を企画し、年間12号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計692ページ、掲載論文は、研究論文17件・技術論文11件・ノート4件・速報論文8件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム；(独) 科学技術振興機構 (JST) ] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」および「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第63巻（平成24年）12号まで掲載している。

#### 5. セミナー

セミナーを6回開催した。話題となっているテーマを取り上げた“エネルギー最前線と表面処理”（大田区産業プラザPiO、5月22日）のほか、“表面処理基礎講座－初級編－”（工学院大学 新宿キャンパス、6月19日），“めっきプロセスの基礎と評価実習”（東京理科大学 野田キャンパス、8月6～7日），“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、8月22～23日），“めっき液の分析と管理”（講義：大田区産業プラザPiO、実習：エビナ電化工業㈱テクノマーク、10月22日），“表面処理基礎講座－上級編－”（工学院大学 新宿キャンパス、11月28日）を開催した。

参加者の合計は253名であった。

#### 6. SURTECH

“SURTECH2013－表面技術総合展”は、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・ICSコンベンションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・日本表面処理機材工業会、特別協力：材料技術研究協会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・日本熱処理技術協会により、“nano tech 2013（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）”など7つの展示会と同時開催した（東京ビッグサイト、1月30日～2月1日）。出展社（機関）は、46社86小間で昨年を上回り、特別企画展示「先端めっき技術とその新展開」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専業社の出展や「めっき実演コーナー」との相乗効果により多くの参観者を集めた。全体の参加者は46,846名であった。

#### 7. 国際交流

11月18日～21日に韓国表面工学会 創立50周年記念講演会が開催され、里見会長がゲストスピーカーとして招待された。

#### 8. ISO規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107部門（金属及び無機質皮膜）の国内対応として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。

## 9. JIS規格検討専門委員会

特別委員会の中にJIS規格検討専門委員会を置き、JIS Z 2371（塩水噴霧試験方法）改正のための検討を進めた。

## 10. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞2件、技術賞2件、進歩賞1名および技術功労賞（団体正会員会社の永年勤続技術功労者）5名を表彰した。

## 11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会と全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、各団体での課題・話題・トピックスなどについて情報交換した。また、第24回表団協セミナー（愛知県産業労働センター、11月25日）を開催し、参加者は80名であった。

## 12. 支部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、九州支部は第128回講演大会の成功に貢献した。

## 13. 部会

「電鍍・金型の表面処理研究部会」と「表面改質・硬化部会」が合併し、新たに「表面技術とものづくり研究部会」が発足した。本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑤ ウェットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 溶射・ライニング部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 環境および機能性に関する塗料部会
- ⑪ 表協エレクトロニクス部会
- ⑫ ナノテク部会
- ⑬ 将来めっき技術検討部会
- ⑭ 表面技術とものづくり研究部会

## 14. その他

会員サービスの一環として、協会ホームページをリニューアルし、協会情報等をより閲覧しやすい形に変更した。